



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年8月10日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 時機

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 安部 一夫

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 平成29年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	4,218	1.8	115	192.6	112	233.7	84	116.2
29年3月期第1四半期	4,146	△2.4	39	△77.5	33	△80.2	39	△58.1

(注)包括利益 30年3月期第1四半期 87百万円 (167.4%) 29年3月期第1四半期 32百万円 (△68.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	39.68	—
29年3月期第1四半期	18.35	—

※当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	15,422	6,184	40.1
29年3月期	14,847	6,097	41.1

(参考)自己資本 30年3月期第1四半期 6,184百万円 29年3月期 6,097百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—				
30年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	8,840	5.0	290	108.6	280	124.0	160	166.7	74.81
通期	17,240	4.2	390	102.1	360	110.5	140	—	65.46

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	2,150,434 株	29年3月期	2,150,434 株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	11,792 株	29年3月期	11,792 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	2,138,642 株	29年3月期1Q	2,138,806 株

※当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、継続的な政府の経済対策や日銀の金融緩和を背景に、企業収益や雇用環境の改善も見られ、穏やかな回復基調で推移しました。一方で、個人消費におきましては従前からの節約志向の定着や所得の伸び悩みにより、停滞感が続いております。また、海外における政治・経済及び安全保障に関する不確定要素も加わり、先行きは不透明な状況となっております。

外食業界におきましては、業種・業態を超えた競争の激化や牛肉等の原材料価格の高騰に加えて、人手不足を主因とする人件費関連コストの上昇が継続しております。また、出店や改装等に要する費用の上昇等により、依然として厳しい経営環境にあります。

このような環境の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの提供に努めてまいりました。

また、成長戦略を実現するために、既存店舗のブラッシュアップを積極的に推進してまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高42億18百万円（対前年同期比1.8%増）、営業利益1億15百万円（対前年同期比192.6%増）、経常利益1億12百万円（対前年同期比233.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益84百万円（対前年同期比116.2%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は190店舗であります。内訳は直営150店舗、暖簾10店舗、F C 30店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「新生活応援フェア」、「劇場版フェアリーテイルコラボ」、「春の宴会獲得キャンペーン」、「ヤマダ電機ファミリーサポート提携」、「GWおでかけクーポンフェア」、「お菓子プレゼント」、「お母さんありがとうフェア」、「夏のアンガス牛フェア」、「父の日フェア」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアを行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は34億99百万円（対前年同期比1.6%減）となり、セグメント利益（営業利益）は2億41百万円（対前年同期比7.9%増）となりました。

② 七輪房業態

七輪房業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は26店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾1店舗、F C 2店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「春の宴会獲得キャンペーン」、「ヤマダ電機ファミリーフェア」等、七輪房の楽しさを伝えるフェアを行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は5億67百万円（対前年同期比10.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は51百万円（対前年同期比366.8%増）となりました。

③ その他業態

その他業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は10店舗であります。内訳は直営5店舗、F C 5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「国産牛カルビ本舗安楽亭（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「開花亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「ロンチャン（中華）」、「A G R I C O（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は1億51百万円（対前年同期比95.9%増）となり、セグメント損失（営業損失）は11百万円（前年同期はセグメント利益4百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ5億74百万円増加し、154億22百万円となりました。これは、有形固定資産及び敷金保証金の増加等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ4億87百万円増加し、92億37百万円となりました。これは、借入金の増加等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ87百万円増加し、61億84百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、平成29年5月12日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,436,829	2,419,805
受取手形及び売掛金	355,798	308,876
商品及び製品	131,588	130,998
仕掛品	738	909
原材料及び貯蔵品	633,292	618,383
前払費用	209,303	213,377
繰延税金資産	85,685	84,662
その他	56,768	329,964
貸倒引当金	△745	△599
流動資産合計	3,909,259	4,106,379
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,753,693	2,834,157
機械装置及び運搬具（純額）	99,925	103,141
工具、器具及び備品（純額）	325,201	364,073
土地	5,004,097	5,004,097
リース資産（純額）	93,457	83,592
建設仮勘定	2,551	2,551
有形固定資産合計	8,278,926	8,391,613
無形固定資産		
のれん	—	64,671
その他	127,200	130,739
無形固定資産合計	127,200	195,410
投資その他の資産		
投資有価証券	117,192	120,567
長期貸付金	6,819	6,737
長期前払費用	18,308	21,131
繰延税金資産	32,307	29,862
敷金及び保証金	2,328,021	2,515,560
その他	55,823	61,520
貸倒引当金	△26,455	△26,414
投資その他の資産合計	2,532,019	2,728,966
固定資産合計	10,938,146	11,315,990
資産合計	14,847,406	15,422,370

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	592,989	546,890
短期借入金	768,108	845,232
リース債務	43,312	41,785
割賦未払金	142,260	157,004
未払金	209,985	207,808
設備関係未払金	73,867	96,851
未払費用	496,854	568,631
未払法人税等	140,594	43,742
未払消費税等	67,100	117,626
賞与引当金	82,300	44,778
転貸損失引当金	13,297	13,297
その他	342,893	503,799
流動負債合計	2,973,565	3,187,447
固定負債		
長期借入金	4,471,527	4,695,476
リース債務	57,588	47,388
長期割賦未払金	454,988	509,862
繰延税金負債	103,935	103,969
役員退職慰労引当金	335,491	339,488
転貸損失引当金	62,727	59,403
退職給付に係る負債	202,115	207,665
その他	88,034	87,034
固定負債合計	5,776,408	6,050,288
負債合計	8,749,974	9,237,736
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	449,883	534,739
自己株式	△70,080	△70,080
株主資本合計	6,099,449	6,184,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,017	328
その他の包括利益累計額合計	△2,017	328
純資産合計	6,097,432	6,184,634
負債純資産合計	14,847,406	15,422,370

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	4,146,047	4,218,619
売上原価	1,482,695	1,514,571
売上総利益	2,663,351	2,704,047
販売費及び一般管理費	2,623,763	2,588,203
営業利益	39,587	115,844
営業外収益		
受取利息	392	413
受取配当金	1,197	1,109
受取地代家賃	2,543	1,722
貸倒引当金戻入額	202	186
その他	12,547	15,396
営業外収益合計	16,884	18,829
営業外費用		
支払利息	20,561	19,313
その他	2,202	2,867
営業外費用合計	22,764	22,181
経常利益	33,707	112,491
特別利益		
受取保険金	30,897	—
特別利益合計	30,897	—
特別損失		
固定資産除却損	—	403
賃貸借契約解約損	—	3,182
訴訟和解金	—	5,000
特別損失合計	—	8,585
税金等調整前四半期純利益	64,605	103,906
法人税、住民税及び事業税	21,259	16,578
法人税等調整額	4,091	2,471
法人税等合計	25,350	19,050
四半期純利益	39,255	84,855
親会社株主に帰属する四半期純利益	39,255	84,855

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	39,255	84,855
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,649	2,346
その他の包括利益合計	△6,649	2,346
四半期包括利益	32,606	87,201
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,606	87,201

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,555,326	513,406	77,314	4,146,047	4,146,047	—	4,146,047
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,555,326	513,406	77,314	4,146,047	4,146,047	—	4,146,047
セグメント利益	224,302	11,126	4,417	239,846	239,846	△200,258	39,587

(注) 1. セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	3,499,692	567,436	151,489	4,218,619	4,218,619	—	4,218,619
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	3,499,692	567,436	151,489	4,218,619	4,218,619	—	4,218,619
セグメント利益又は 損失(△)	241,945	51,942	△11,753	282,134	282,134	△166,290	115,844

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、日総開発㈱から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては37,666千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、日総開発㈱から2店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては30,408千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。